

分科会 文書配布による報告品目等（農薬関係）

・ ジノテフラン（適用拡大）	1
・ ベンチアバリカルブイソプロピル（適用拡大）	135
・ トルフェンピラド（適用拡大）	203
・ ミクロブタニル（暫定基準の見直し）	275

各剤について

- ・ 諮問書（厚生労働大臣から薬事・食品衛生審議会会長へ）
- ・ 評価書（食品安全委員長から厚生労働大臣へ）

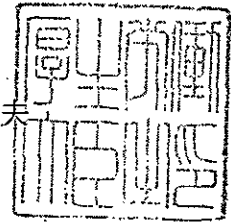
と2文書がございます。



厚生労働省発食安0519第4号
平成23年5月19日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 細川 律夫



諮問書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、
下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬及び動物用医薬品の食品中の残留基準設定について

ジノテフラン

平成23年6月7日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成23年5月19日付け厚生労働省発食安0519第4号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくジノテフランに係る食品規格（食品中の農薬及び動物用医薬品の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

ジノテフラン

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

1. 概要

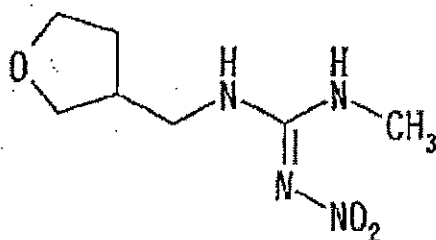
(1) 品目名：ジノテフラン [Dinotefuran (ISO)]

(2) 用途：殺虫剤

テトラヒドロフリルメチル基を有するネオニコチノイド系殺虫剤である。主な作用機序は、神経のシナプス後膜にあるニコチン性アセチルコリン受容体に対するアゴニスト作用によるものと考えられている。

(3) 化学名：(RS)-1-methyl-2-nitro-3-(tetrahydro-3-furylmethyl)guanidine (IUPAC)
N-methyl-N'-nitro-N''-[(tetrahydro-3-furanyl)methyl]guanidine (CAS)

(4) 構造式及び物性



分子式	C ₇ H ₁₄ N ₄ O ₃
分子量	202.21
水溶解度	40 g/L (20°C, pH 6.98)
分配係数	log ₁₀ Pow = -0.549 (25°C)

(メーカー提出資料より)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

なお、作物名、使用方法のように記載しているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

（1）農薬としての使用方法

①0.35%ジノテフラン粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	カメムシ類	3～4kg/10a				

②0.5%ジノテフラン粉剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	—	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
だいち		カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ			2回以内		3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
えだまめ							2回以内

③10%ジノテフラン液剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数
稲		ツマグロヨコバイ	1000 倍	60～150L /10a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条施用 は合計 1 回以内、本 田での散布、空中散 布、無人ヘリ散布は 合計 3 回以内)
		300 倍		25L/10a				
		カメムシ類 ウンカ類	8 倍	0.8L/10a			無人ヘリ コプターによ る散布	
			30 倍	3L/10a			空中散布	
			だいち	カメムシ類 フタスジヒメハムシ			1000 倍	
カメムシ類	8 倍	0.8L/10a		無人ヘリ コプターによ る散布				
				空中散布				
えだまめ		カメムシ類 フタスジヒメハムシ	1000 倍	100～ 300L/10a		散布	2 回以内	

④4%ジノテフラン・48%プロベナゾール水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 いもち病 いもち病 ウンカ類	500g/10a	移植時	1 回	ペースト肥料に混 合し側条施肥田植 機で施用する	4 回以内 (育苗箱への処理及 び側条施用は合計 1 回以内、本田での散 布、空中散布、無人 ヘリ散布は合計 3 回 以内)

⑤10%ジノテフラン・8%トリシクラゾール水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000 倍	60～150L /10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処 理および側条施 用は合計 1 回以 内、本田での散 布、空中散布、 無人ヘリ散布は 合計 3 回以内)
		250～ 300 倍	25L /10a				
		8 倍	0.8L /10a			無人ヘリコ プターによ る散布	

⑥15%ジノテフラン・クロラントラニリプロール水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の 総使用回数
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット1 冊 (30×60 cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0L) 当り 0.5L	定植 前日 ～ 定植時	1 回	灌注	3 回以内 (育苗期の株元散布、定 植時の土壌混和及び灌注 は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
はくさい	アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ						3 回以内 (定植時の土壌混和及び 灌注は合計 1 回以内、散 布は 2 回以内)
レタス	アブラムシ類 オオタバコガ カブラヤガ ナモクリハエ ハスモンヨトウ						3 回以内 (育苗トレイへの灌注は 1 回以内、散布は 2 回以 内)

⑦1%ジノテフラン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネドロオイムシ カメムシ類	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
きゅうり	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	ハモグリバエ類 アザミウマ類		定植時		植穴土壌混和	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期		株元散布	
			生育期 但し、収穫14日前まで			
		1～2g/株	定植時		植穴土壌混和	
うり類 (漬物用)	アザミウマ類	2g/株	定植時		植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2g/株				
メロン	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布は2回以内)
	ハモグリバエ類 アザミウマ類		定植時		植穴土壌混和	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期		株元散布	
			定植時			
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
			生育期 但し、収穫21日前まで		株元散布	
			育苗期			

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノフェンを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	アブラムシ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌 混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
なす	ハモグリバエ類	2g/株	育苗期		2回以内	株元 散布
	ハモグリバエ類 アザミウマ類	1～2g/株	定植時	植穴 土壌 混和		
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期	株元 散布		
			生育期 但し、 収穫前日 まで			
トマト ミニトマト	ハモグリバエ類	1～2g/株	育苗期	1回	植穴 土壌 混和	5回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	コナジラミ類 アブラムシ類	1g/株	定植時	2回以内	株元 散布	
			育苗期			
			生育期 但し、 収穫前日 まで			
	定植時					
ピーマン	アザミウマ類	1～2g/株	定植時	1回	植穴 土壌 混和	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	育苗期	2回以内	株元 散布	
			生育期 但し、 収穫前日 まで			
			定植時			
とうがらし 類	アザミウマ類	1～2g/株	定植時	1回	植穴 土壌 混和	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	育苗期		株元 散布	
			生育期 但し、 収穫14日前 まで			
			定植時			
とうがらし (葉)	アザミウマ類 アブラムシ類	1g/株	定植時 但し、収穫 30日前まで		植穴 土壌 混和	1回

作物名	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	2g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
	アオムシ コナガ	2～3g/株	定植時		植穴土壌混和	
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
はくさい	アブラムシ類	2g/株	定植時		植穴土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	アオムシ コナガ	2～3g/株				
	ハイマダラノメイガ	3g/株				
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ	2g/株				3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類	6kg/10a	定植時	2回以内	株元散布	4回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
			生育期 但し、 収穫3日前 まで			
にんじん	ハモグリバエ類	9kg/10a	は種時	1回	播溝土壌混和	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジメチアトを含む農薬の総使用回数
だいこん	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	5回以内 (は種時の粒剤の播溝土壌混和は1回以内、は種時の粒剤の全面土壌混和は1回以内、生育期の粒剤の散布は1回以内、生育期の水溶剤の散布は2回以内)
	キスジノミハムシ	4~6kg/10a			全面 土壌混和	
		9kg/10a	生育期 但し、 収穫30日前 まで		散布	
かぶ	キスジノミハムシ アブラムシ類	6kg/10a	は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
レタス 非結球レタス	ナモグリバエ		培土1L当り 15g		は種前	育苗 培土混和
	アブラムシ類 ナモグリバエ	1g/株	育苗期後半		株元散布	
		2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	6kg/10a	定植時		土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類		は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
非結球 あぶらな科 葉菜類 (チンゲンサイを除く)	アブラムシ類 キスジノミハムシ					
なばな類	アブラムシ類					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジ/テフアジを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	アブラムシ類	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
しゅんぎく	ハモグリハエ類	9kg/10a			定植時	植溝 土壌混和
いちご	ワタアブラムシ	0.5～1g/株	植穴 土壌混和			1回
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ	20g/株	育苗期	5回以内	株元散布	5回以内
くわい	アブラムシ類	3kg/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内
オクラ		9kg/10a	生育期 但し、 収穫14日前まで	1回	株元散布	3回以内 (株元散布は1回以内、散布は2回以内)
さやえんどう	ハモグリハエ類				播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
だいず	フタスジヒメハムシ	6kg/10a	は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
食用ぎく	アブラムシ類	1g/株 (但し、10a 当り30kg まで)	定植時		植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、 散布は2回以内)
	マメハモグリハエ	2g/株 (但し、10a 当り30kg まで)				
茶	クワシカバアブラムシ	12kg/10a	摘採7日前まで	2回以内	株元 土壌混和	2回以内

⑧1%ジノテフラン・4%ベンフラカルブ粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネノミズウムシ イネミズゾウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計 3 回以内)
ねぎ	ネギアザミヤ ネギハモグリハエ	3～6kg/10a	定植時		株元散布	4 回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、生育期の株元灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)
きゅうり	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1g/株				4 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
なす	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1g/株	定植時	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
メロン	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1g/株				3回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び定植時の株元散布は合計1回以内、散布は2回以内)

⑨2%ジノテフラン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	ジノフランを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネクロカメムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	は種前	1 回	育苗箱 の床土又は 覆土に 均一に 混和する。	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条施用は 合計 1 回以内、本田 での散布、空中散布、 無人ヘリ散布は合計 3 回以内)
	は種時覆土前 ～移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。			
	移植 3 日前 ～移植当日					
	ニカメイチュウ フタオビコヤガ					

⑩3%ジノテフラン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内)
	カメムシ類				無人ヘリコプターによる散布	

⑪5%ジノテフラン・15%ピロキロン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ	1kg/10a	出穂5日前まで	2回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内)
	いもち病 ウンカ類 カメムシ類				無人ヘリコプターによる散布	

⑫12%ジノテフラン剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	250g/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布は合計3回以内)
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	250～500g/10a				

⑬20%ジノテフラン水溶剤

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	—	カメシ類	2000 倍	60～150L /10a	収穫 7 日 前 まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及 び側条施用は合計 1 回以内、本田での散 布、空中散布、無人ヘリ 散布は合計 3 回以内)
		ウカ類 ツマグロヨコバイ	3000 倍					
アブラムシ類		2000～ 3000 倍	100～300L /10a	収穫 前日 まで	2 回 以内	3 回以内 (育苗期の 株元散布及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植 後の株元散布は 合計 2 回以内)		
コジラミ類								
アザミヤカ類		2000 倍						
ピーマン		コジラミ類	100 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱また はハーフポット 1 冊(30× 60cm・使用土 壌約 1.5～ 4.0L) 当り 0.5L	定植時	1 回	灌注	5 回以内 (育苗期の株元散布は 1 回以内、定植時の灌注 は 1 回以内、定植時の 土壌混和は 1 回以内、散 布及び定植後の株元散 布は合計 2 回以内)
なす		コジラミ類	2000～ 3000 倍	100～300L /10a	収穫 前日 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (育苗期の株元散布、 定植時の土壌混和及 び定植時の株元散布 は合計 1 回以内、散 布及び定植後の株元 散布は合計 2 回以内)
		アブラムシ類	3000 倍					
		アザミヤカ類	2000 倍					
アブラムシ類		3000 倍						
とうがらし類		アザミヤカ類	2000 倍					4 回以内 (育苗期の株元散布及 び定植時の土壌混和は 合計 1 回以内、定植後 の株元散布は 1 回以 内、散布は 2 回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジノテフラン を含む農薬の 総使用回数
かぼちゃ	—	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L /10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	3 回以内 (定植時の土 壌混和は1 回 以内、散布は 2 回以内)
きゅうり		アブラムシ類 コジラミ類	2000～ 3000 倍					4 回以内 (育苗期の株 元散布、定植 時の土壌混 和及び定植 時の株元散 布は合計1 回 以内、定植後 の株元散布 は1 回 以内、散布は 2 回以内)
		アザミヤカ類	2000 倍					
すいか		アブラムシ類	2000～ 3000 倍		収穫7 日前 まで			4 回以内 (育苗期の 株元散布及び 定植時の土壌 混和は合計 1 回以内、 定植後の株元 散布は1 回 以内、散布は 2 回以内)
メロン		コジラミ類						
		アブラムシ類	3000 倍		収穫3 日 前まで			3 回以内 (育苗期の株 元散布、定植 時の土壌混 和及び定植 時の株元散 布は合計1 回 以内、散布は 2 回以内)
		アザミヤカ類	2000 倍					
うり類 (漬物用)		コジラミ類 アザミヤカ類	2000 倍		収穫7 日 前まで			3 回以内 (定植時の土壌 混和は1 回 以内、散布は 2 回以内)
		アブラムシ類	2000～ 3000 倍					
にがうり		コジラミ類	2000 倍		収穫前日 まで			2 回以内
ズッキーニ	アブラムシ類							

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジメチアザンを含む農薬の総使用回数
まくわうり	—	アブラムシ類	3000 倍	100～300L/10a	収穫 3 日前まで	1 回	散布	1 回
クレソン			2000～3000 倍			3 回以内		3 回以内
ブロッコリー						2 回以内		3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
セルリー		アブラムシ類	2000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	
はくさい		アブラムシ類	2000～3000 倍		収穫 3 日前まで			3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
キャベツ		アブラムシ類 コナガ アオムシ ハイマダラメイガ	50～100 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (30×60cm・ 使用土壌約 3L) 当り 0.5L	定植前日～定植時	1 回	灌注	3 回以内 (育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
レタス		アブラムシ類	2000～3000 倍	100～300L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	4 回以内 (は種前の育苗培土混和は 1 回以内、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計 1 回以内、散布は 2 回以内)
		ハスモンヨトウ	50 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (30×60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り 0.5L	定植前日～定植時	1 回	灌注	
		アブラムシ類 ナメコバエ	50～100 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数	
非結球 レタス	—	アブラムシ類	2000～ 3000 倍	100～300L /10a	収穫 3 日 前まで	2 回以 内	散布	4 回以内 (は種前の育苗培土 混和は 1 回以内、 育苗期の株元散布 及び定植時の土壌 混和及び育苗トレイへ の灌注は合計 1 回以 内、散布は 2 回 以内)	
		ハスモンヨトウ	50 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱また はハーフポット 1 冊 (30× 60cm・ 使用土壌約 1.5～4.0L) 当り 0.5L	定植前日 ～ 定植時	1 回	灌注		
		アブラムシ類 ナメコグリバエ	50～ 100 倍						
だいこん			アブラムシ類	3000 倍	100～300L /10a	収穫 7 日 前まで	2 回以 内	散布	5 回以内 (は種時の粒剤の 播溝土壌混和は 1 回以内、は種時の粒 剤の全面土壌混和 は 1 回以内、生育期 の粒剤の散布は 1 回以内、生育期の水 溶剤の散布は 2 回以内)
かぶ					収穫 3 日 前まで			3 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回 以内、散布は 2 回以 内)	
ねぎ			アザミヤカ類	2000 倍	100～300L /10a	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	4 回以内 (育苗トレイへの 灌注及び定植時の 株元散布は合計 1 回以内、生育期の 株元灌注は 1 回以 内、散布及び定植 後の株元散布は合 計 2 回以内)
			アザミヤカ類 ネギハモグリバエ	50 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱また はハーフポット 1 冊 (30× 60cm・ 使用土壌 約 1.5～4.0L) 当り 0.5L	定植前日 ～ 定植時	1 回	灌注	
			アザミヤカ類 ネギハモグリバエ トビイロヒョウタンゾウムシ	400 倍	0.4L/m ²	生育期 但し、収穫 14 日前まで		株元 灌注	
にら			ネギアザミヤ	400 倍	0.4L/m ²	生育期 但し、 収穫 14 日 前まで	1 回	株元 灌注	3 回以内 (生育期の株元灌注 は 1 回以内、散布は 2 回以内)
		ネギアザミヤ アブラムシ類	2000 倍	100～300L /10a	収穫 前日まで	2 回以内	散布		

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジノテフラン を含む農薬の 総使用回数	
アスパラガス	—	アザミヤカ類 コナジラミ類 ジュウホシホトアカハムシ	2000 倍	100～800L /10a	収穫 前日まで	3 回以 内	散布	3 回以内	
にんじん		アブラムシ類		100～300L /10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内		4 回以内 (は種時の 土壌混和は 1 回以内、 生育期の 株元灌注は 1 回以内、散布 は 2 回以内)	
		トビイロヒヨウタンゾウムシ	400 倍	0.4L/m ²	生育期 但し、 収穫 21 日 前まで	1 回	株元 灌注		
しゅんぎく		アブラムシ類	3000 倍		収穫 前日 まで			3 回以内 (は種時及び 定植時の土壌 混和は合計 1 回 以内、散布は 2 回以内)	
ほうれんそう								3 回以内 (は種時の土 壌混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)	
チンゲンサイ		キスジノミハムシ	2000 倍	100～300L /10a			2 回 以内	散布	3 回以内 (は種時及び 定植時の土壌 混和は合計 1 回以内、散布 は 2 回以内)
非結球あぶらな 科葉菜類 (チンゲンサイ を除く)		アブラムシ類	3000 倍						
なばな類		アブラムシ類	3000 倍		収穫 3 日前 まで				3 回以内 (は種時の土 壌混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)
		キスジノミハムシ	2000 倍						

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数		
ばれいしょ	—	ワタアブラムシ	2000 倍	100～300L /10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内		
かんしょ		コナジラミ類			収穫 3 日前まで	1 回		1 回		
だいず		カメムシ類 ダ・イズ・サヤタマハエ			収穫 7 日前 まで	2 回以内		3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)		
		フタスジヒメハムシ	3000 倍						2 回以内	
えだまめ		カメムシ類 ダ・イズ・サヤタマハエ	2000 倍		3 回以内 (株元散布は 1 回以 内、散布は 2 回以内)					
さやえんどう		フタスジヒメハムシ	3000 倍			3 回以内				
らっきょう		アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000 倍		収穫前日 まで	2 回以内		3 回以内 (株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)		
オクラ		アザミウマ類			収穫 3 日前 まで	3 回以内		2 回以内		
すいぜんじな		アブラムシ類			収穫 7 日前 まで	3 回以内		3 回以内		
ふき		コナジラミ類			200～ 700L /10a	収穫前日 まで		2 回以内	3 回以内 (塗布は 1 回以内、散 布は 3 回以内)	
せり	水田	アブラムシ類		3 回以内			3 回以内			
りんご	—	アブラムシ類 キンモンホリガ シンクイムシ類 ギンモンハモグリガ クロコナカイラムシ カメムシ類	2000 倍	200～ 700L /10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内		
もも		モモチョッキリゾウムシ							2 回以内	3 回以内
ネクタリン		アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類								
おうとう		オウトウショウジヨウハエ カメムシ類	2 回以内			2 回以内				
なし		アブラムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 クロコナカイラムシ	3 回以内			3 回以内				
かき		カメムシ類 コナカイラムシ類 カキノヘタムシガ チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ						3 回以内	3 回以内	
マンゴー		チャノキイロアザミウマ								

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノアランを含む農薬の総使用回数
小粒核果類	—	アブラムシ類 カメムシ類	2000 倍	200～700L /10a	収穫 前日まで	3 回 以内	散布	3 回以内
ぶどう		フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ コナカイラムシ類	3000 倍 1000～ 2000 倍		収穫 前日まで	3 回 以内		3 回以内
かんきつ		チャノキイロアザミウマ コナカイラムシ類 ゴマダラカミキリ アブラムシ類 シロハモグリガ カメムシ類 コナハナムシ ゲキスイ類 シロハエ アカハナハムシ ヤノハナハムシ シロキジラミ コナジラミ類 チャノミドリヒメヨコバイ	1000～ 2000 倍 1000 倍 2000 倍		収穫 前日まで	3 回 以内		3 回以内
びわ		カメムシ類	2000 倍		収穫前日 まで	2 回以内 3 回以内		2 回以内 3 回以内
キウイフルーツ		カメムシ類	1000～ 2000 倍		収穫 14 日前 まで	2 回以内		2 回以内
あけび(果実)		カメムシ類	2000 倍		摘採 7 日前 まで	2 回 以内		2 回以内
茶		チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ツマグロアサミカメ コシロアブラムシ	2000 倍	200～ 400L /10a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内		2 回以内
てんさい		カメノコハムシ テンサイモグリハナハエ テンサイヒメハムシ テンサイヒメハムシ	1000～ 2000 倍 100～ 200 倍 100～ 240 倍	100～ 300L/10a 5L/ハナハエ ポット 6 冊 (2.5L/m ²) 6L/ハナハエ ポット 6 冊 (3L/m ²)	収穫 7 日前 まで 移植前	1 回	灌注	3 回以内 (灌注は 1 回 以内、散布は 2 回以内)
しそ科葉菜類 (バジルを除く)		アブラムシ類	3000 倍	100～300L /10a	収穫 3 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内
バジル		アブラムシ類 コナジラミ類			収穫 3 日前 まで			
しそ(花穂)		アブラムシ類			収穫 3 日前 まで			

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回 数		
きゅうり (葉)	—	アブラムシ類 コナジラミ類	3000 倍	100～300L /10a	収穫 3 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内		
きゅうり (花)					収穫 前日まで					
しよくよう ほおずき		アブラムシ類			収穫 3 日前 まで					
食用ミハナ					収穫 3 日前 まで					
食用カーネーション					収穫 3 日前 まで					
食用トネア		コナジラミ類			収穫 3 日前 まで					
食用パセリ		アブラムシ類			収穫 7 日前 まで			3 回以内 (定植時の土 壌混和は 1 回 以内、散布は 2 回以内)		
食用ぎく										

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かき	コナジラミ類	20～40 g/樹	発芽前 ～ 発芽期	1 回	本剤 1 g 当り水 1mL の割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する。	4 回以内 (塗布は 1 回以内、散布は 3 回以内)

⑭20%ジノテフラン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
わさび	アブラムシ類	2000 倍	200 L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内

⑮50%ジノテフラン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類	40 倍	0.8L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	無人 ヘリコプターに よる散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び 側条施用は合計 1 回以 内、本田での散布、 空中散布、無人ヘリ 散布は合計 3 回以内)
						空中散布	

(2) 動物用医薬品としての使用方法

食用動物には直接使用しない。畜・鶏舎内及びその周辺のハエの成虫の発生又は棲息する場所に、畜・鶏舎内外の床面積 100m² に対し、ジノテフランとして 2g を 100～400ml の水に溶かした溶液を壁、柱に塗布する、又は壁、柱等に噴霧塗布する。なお、塗布量の目安は塗布面 1m² 当たり溶液 100ml とし、溶液が地面に滴り落ちないようできるだけ均一に塗布又は噴霧塗布を行う。

3. 農薬の作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

ジノテフラン

② 分析法の概要

試料からアセトニトリル又は含水メタノールにより抽出し、ヘキサンで洗浄後、多孔性ケイソウ土、ベンゼンスルホンプロピルシリル化シリカゲル (SCX)、グラファイトカーボン・エチレンジアミン-*N*-プロピルシリル化シリカゲル (PSA)、トリメチルアミノプロピルシリル化シリカゲル (SAX) 等のカラムを用いて精製する。又は、試料からアセトニトリルで抽出し、多孔性ケイソウ土、中性アルミナ、グラファイトカーボン、グラファイトカーボン・PSA 等のカラムを用いて精製する。高速液体クロマトグラフ (UV) 又は液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) で定量する。

定量限界 0.01～0.05ppm (えごま (葉) は 0.4ppm)

(2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1 を参照。

4. 乳汁への移行試験結果

乳牛 6 頭 (各群 2 頭) に対し、ジノテフラン 3, 12, 48mg/頭/日をカプセルに封入した製剤を、朝の搾乳直後に 7 日間連続して経口投与した。

投与開始前日、及び投与開始後 1、3 及び 7 日目、最終投与後 1、3、5 及び 7 日目に、搾乳機を用いて 1 日に 2 回搾乳し、同一日の試料を十分に混合し、分析試料としてジノテフラン含量を測定したところ、いずれの試料においても、ジノテフラン及び主要代謝物 UF (1-メチル-3- (テトラヒドロ-3-フリルメチル) ウレア)、DN (1-メチル-3- (テトラヒドロ-3-フリルメチル) グアニジン)、MNG (1-メチル-2-ニトログアニジン) の残留は検出されなかった。(検出限界はジノテフラン 0.04ppm、主要代謝物 0.02ppm)

5. 動物用医薬品の残留試験

動物用医薬品の用途においては、食用動物には直接適用しないため残留試験は実施されていない。

6. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会にて意見を求めたジノテフランに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：22 mg/kg 体重/day

（動物種） イヌ

（投与方法） 混餌

（試験の種類） 慢性毒性試験

（期間） 1年間

安全係数：100

ADI：0.22 mg/kg 体重/day

また、動物用医薬品としては上記の評価に加え以下のとおり評価されている。

本剤は水に溶かした溶液を畜・鶏舎内及びその周辺の壁、柱等に塗布又は噴霧塗布して使用され、動物体に直接適用されない。また、ジノテフランは蒸気圧が $<1.7 \times 10^{-6}$ Pa（25℃）と極めて低く、常温、常圧下ではほとんど揮発しないと考えられることから、これを動物が吸入し暴露することも考えにくい。動物体への暴露が想定される最悪のケースは、空間に噴霧された薬剤が動物体に暴露するものであるが、臨床用量の5倍量を鶏、牛に直接噴霧した場合にも、血液、鶏卵、乳のいずれからもジノテフランは検出されないことが確認されている（定量限界0.01ppm）。このことから、本製剤については適切に使用される限りにおいて、製剤に含有される成分が食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は無視できるものと考えられると評価されている。

7. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

農薬としては、米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてばれいしょ、ぶどう等に残留基準値が設定されている。

動物用医薬品としては、食用動物への直接の使用は認められていない。

8. 基準値案

（1）残留の規制対象

ジノテフランとする。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物及び畜産物中の暴露評価対象物質としてジノテフラン（親化合物のみ）を設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限までジノテフランが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大1日摂取量(TMDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	TMDI / ADI (%) 注)
国民平均	18.4
幼小児 (1～6 歳)	34.0
妊婦	14.5
高齢者 (65 歳以上)	19.3

注) TMDI 試算は、基準値案×各食品の平均摂取量の総和として計算している。